

# 特定利用空港・港湾に釧路港が選定される

## 有事に釧路港が標的となる危険が拡大

政府は4月1日、かねてより検討中だった「特定利用空港・港湾」に釧路港をはじめ道内5港、全国16か所を選定しました。平時から民間港に自衛艦の入港の拡大・促進を図るもので、「競争する国づくり」の一環と見なければなりません。

自衛艦が訓練などで民間港を利用する場合、民間船舶との調整などがあり、自衛艦が自由に使えるわけではありません。

そこで国は、「軍民共同利用する施設を選定し、従来の整備費を上積みする」という『特

定利用空港・港湾』を検討してきました。

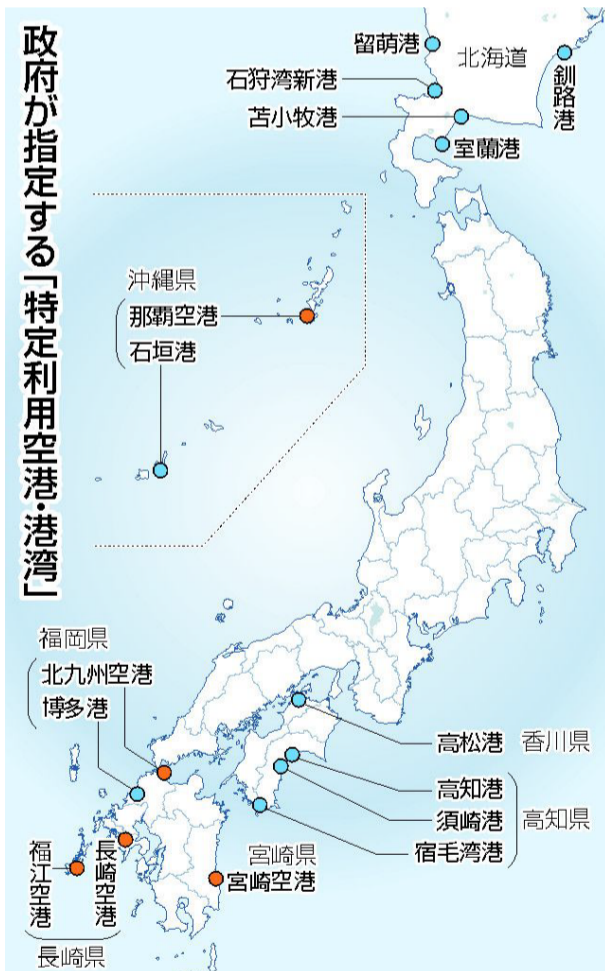
### 沖縄と北海道の違い

昨年末、候補地が発表された時は32か所があがっていましたが、実際に選定されたのはその半分でした。

台湾有事を想定して、沖縄県だけで12か所が候補地とされていますが、デニー知事の沖縄県が認めず、那覇空港と石垣港の2か所の指定にとどまりました。

その一方で、道内候補地5港はすべて選定されました。

台湾有事をめぐって、道内から隊員や武器を南西諸島に大量輸送するという戦略なのでしょう。



政府が指定する「特定利用空港・港湾」

時事ドットコムニュースより

この選定で、有事となった場合に、相手国の攻撃目標とされる危険が格段にあがることとなります。

### 議会で反対の論陣を

この問題が浮かび上がった直後の昨年12月議会で、村上議員は市長と論戦しました。

① 自衛艦の利用拡大で民間船舶の航行が圧迫される。

② 港湾整備も自衛艦の都合に合わせてられる可能性がある。

③ 有事の危険が増大する。

と、選定を受けるべきでないと主張しました。しかし、市長は「自治体が国の防衛に協力するのは当然」との姿勢を示しました。この姿勢が選定の後押しとなったと考えられると思います。

費用はどのくらい？  
関連予算として、国は釧路港に今年度26億円、全国で370億円を充てると新聞は報じています。釧路港の26億円は、釧路港よりはるかに多くの貨物を取り扱っている苫小牧港を上回り、道内では最高額です。

村上かずしげ通信

発行 共産党市議団 23-5212